

修道学園(中・高)
同窓会会報誌

第88号

令和4年9月1日発行

CONTENTS

- 01 会報誌の発行にあたって
会長 深山英樹 (高12回)
- 02 支部活動報告
- | | |
|------|--------------|
| 関東支部 | 松村 吉恭 (高30回) |
| 近畿支部 | 河本 浩二 (高45回) |
- 03 九修会 石本 俊亮 (高27回)
修道医会 松本 正俊 (高42回)
- 04 広島修道歯科医会 毛利 雅哉 (高31回)
広島市修道会 木村 隆之 (高59回)
- 05 同窓生だより
- | | |
|-----------------|--------------|
| 修道テニス部の思い出 | 大岡 征武 (高14回) |
| 懐かしき修道学園と吾が人生点描 | 竹本 宗弘 (高16回) |
| “鬼の会”の存在 | 菱川 方則 (高16回) |
| 修道18回生同期会報告 | 山本 正一 (高18回) |
| 湯川秀樹博士の思い出 | 住川 雅洋 (高19回) |
| 『校風と人脈』のお陰 | 土屋 定之 (高24回) |
| 六十五歳の修道愛 | 村井 慎治 (高27回) |
| 文化祭でカーブ応援映画を上映 | 田淵 雅也 (高28回) |
| 柔道部の思い出 | 大上 芳樹 (高31回) |
| 修道と広島と東京と | 金森 貴哉 (高32回) |
- 32回生の還暦祝い「『万歳!! オレたちのCAN暦』
～さあ、何でもカンでもCAN暦じゃ～」
諏訪 昭浩 (高32回)
- 13 高校33回卒業生「還暦を祝う会」開催報告
上田 道浩 (高33回)
修道と国際化 中村 武洋 (高33回)
- 14 音楽班初の全国総文出場 栗本 潤 (高37回)
水泳班の思い出を皆様とともに 名和原 寛 (高51回)
- 15 社会に出てからの修道学園との繋がり 渡邊 仁也 (高51回)
ターニングポイントと修道生 竹中 真聖 (高67回)
- 16 旧制修道中学校教諭、澤原一二先生と
長野県木曾福島町の佛法僧
楯 英雄
- 17 修道学園同窓会連合会・修道学園(中・高)同窓会
事業報告並びに収支決算、収支予算
- 21 トピックス
起工式及び工事の開始
修道学園創設300周年記念事業ホームページのご紹介
- 22 同窓会ニュース
新本館建設(ご寄附のお願い)
- 23 事務局だより

修
道

SHUDO

..... 第 88 号同窓会会報誌の発行にあたって



同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度の同窓会会報誌第 88 号の発行にあたりましては、各方面より多大なるご協力を賜り無事発行の運びとなりました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。この会報誌が同窓会と同窓生の、また、同窓生同士の情報交換・情報発信の一助となれば幸いです。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響が継続しておりますが、新型コロナウイルスワクチンの接種も進み、少しずつ元の生活への兆しを感じられつつあります。また、学校運営につきましても多大なる影響を受け、現役生はもとより、教鞭を執られる先生方も、人と人との繋がりを大切にする教育をはじめ、創意工夫されておられると伺っております。

しかしながら、このような時こそ、我々修道学園（中・高）同窓会が母校の苦境を助け、更なる発展に寄与すべく、活動を充実していかねばと決意を新たにいたしております。会員の皆様には、変わらぬご支援を賜りますよう、宜しく願いいたします。

修道学園（中・高）同窓会 会長 深山 英樹（高 12 回）

2022年関東支部の つどい開催報告

関東支部副幹事長

松村 吉恭 (高30回)

2022年7月11日(月)に東京ドームホテルにて、2022年関東支部のつどいを開催いたしました。

関東支部のつどいは2019年
以来の三年振り
の開催となりま
したが、来賓と
して、林正夫修
道学園理事長、
深山英樹同窓会
長、下田保清修
道学園参与、田原俊典校長、有馬昌宏近
畿支部会長をお迎えし、200名弱の参加
者とともに、高20回、高30回、高40回の0
の回を担当幹事とし盛大に開催いたしまし
た。



前田育男さん(高30回)による講演会

第一部の講演会は午後6時より大重麻衣さん(元広島ホームテレビアナウンサー)の司会でスタートし、マツダ株式会社シニアフェローブランドデザインの前田育男さん(高30回)による、『マツダデザインの挑戦』と題した講演が行われました。前田さんは、世界的に著名なカーデザイナーであり、チーフデザイナー、デザイン本部長、常務執行役員として、『RX-8』3代目『デミオ』などマツダを代表する数々の車の開発とともに、長年の間、同社のデザイン、ブランド全般を主導してこられています。

当日は、クルマはアートである、人馬一体、クルマに命を与える、というデザイン哲学『魂動(こころ)』の説明に始まり、それを表現した『Most Beautiful Concept Car of The Year』を受賞した『RX-VISION』・『VISION COUPE』の2台のコンセプトモデルを素晴らしい映像とともに紹介頂き、参加者を魅了しました。

第二部の総会・

懇親会は午後7時より開始し、関東支部の平野清稔実行委員長(高30回)の開会宣言、米田正巳会計監事(高15回)の会計報告、



林正夫修道学園理事長によるご挨拶

告、弘中惇一郎会長(高16回)の開会挨拶、その後、来賓のご紹介、林正夫修道学園理事長、深山英樹同窓会長からのご挨拶を頂き、田原俊典校長の乾杯により懇親会がスタートしました。

懇親会の中では、約60名が参加し4月に開催された関東支部春季ゴルフ大会の表彰式が行われ、個人戦優勝(吉寄富雄さん(高23回))、ベストグロス賞(上巳浩さん(高18回))、団体戦優勝(高23回)の表彰が映像紹介とともになされました。それに続き、関東地区の部・班の代表者からの活動紹介(テニス班:渡辺俊一さん(高25回)、サッカー班:大谷栄一さん(高21回)、バレーボール班:仁井勝三さん(高24回)、水泳班:正木浩視さん(高24回)、釣り同好会:高瀬一郎さん(高25回))がなされました。最後には、同窓生にゆかりのある品々を景品とした大抽選会が開催され、懇親会は盛り

り上がりました。

その後、閉会に移り、次年度の実行委員への引継ぎ(宮城秀樹さん(高30回)↓笹野照三さん(高31回))、校歌演奏、最後に、稲田英一郎 幹事長(高49回)の開会宣言により、午後9時に閉会となりました。

三年振りに多くの同窓生が、再会、集える場となり、本会の開催に際しまして、修道学園、同窓会事務局、近畿支部はじめ、関係者の方々に多大なご支援・ご協力を賜りましたことを改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

同窓会近畿支部

2021年活動報告

河本 浩二 (高45回)

2021年も新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。近畿支部では12月の「集い」に向けて準備をしていましたが、最終的にはリアルでの開催は断念しました。

12月5日(日)にzoomを利用したWEB総会・支部の集いを開催し18名が参加しました。自宅やネットカフェ、中には移動中の家用車(運転は奥様にまかせて)からの参加もありました。

まずは近畿支部会長の有馬昌宏さん(高24回)の開会挨拶で2021年の近畿支部の活動を振り返りました。次に代表幹事会計の谷村典俊さん(高30回)による会計報告と監査担当の林治令さん(高19回)による会計監査報告が全会一致で承認されました。

その後同窓会本部から送っていただいた校長の田原俊典先生と会長の深山英樹様からのビデオメッセージを流しました。田原先生からは新型コロナウイルスの影響がありながらも工夫して学校行事を実施しているお話がありました。現役の修道生にも良い思い出をたくさん作ってほしいものです。深山様からはコロナ禍で同窓会活動が縮小している中、修道学園300周年記念事業に向けての意気込みを聞かせていただきました。

総会に引き続き、一人一人の近況を報告しました。教育実習で修道学園にいった話や新型コロナウイルスに罹患してしまった話など、それぞれの2021年を興味深く聞くことができました。WEBの良い点は一人一人の話を落ち着いて聞くことができることです。

それぞれの話の後は近藤達夫さん(高29回)に美声を披露してもらいました。12月ということでWhite Christmasをしっかりと歌い上げられました。その後は全員で校歌斉唱をしました。こちらは近藤さん、世良朋孝さん(高35回)のリードに従って皆が歌い上げました。

オンラインの都合で聞こえる音と自分の歌声にタイムラグが生じ、よく言えば現代音楽風の、普通に言えばぐちゃぐちゃの歌になってしまいました。それがWEBの良いところ(?)です。

その後は近畿支部の2022年に向けての予定を話しあいました。2022年に近畿の大学に進学する修道生に同窓会を知ってもらいサポートするにはどうしたらよいかという話や、2022年の広島東洋カープ応援会をぜひ球

場で開催したいという話（残念ながら2022年は京セラドーム大阪での試合がなく、甲子園球場での開催になりそうです）などをしてきている間にあつという間に時間は過ぎ、約3時間の集いを終了しました。

WEBはWEBで良いところがあるものの、2022年こそはリアルで集まっの集いを開催したいと思います（12月4日にホテルグランヴィア大阪で開催予定）。2022年5月7日には、環境問題のコンサルタントである津村照彦さん（高24回）が英国から帰国された機会を捉えて2年ぶりにリアルで集まっのミニ交流会（テーマ…カーボンニュートラルへの対応）を開催しました。修道学園近畿支部のホームページでも活動を案内、報告していますので今後ともご支援、ご協力のほどをよろしくお願ひします。

令和4年度 九修会総会報告

石本 俊亮（高27回）

新型コロナウイルス感染症の影響で2年間開催を見送ってきましたが、年初からの感染状況を踏まえ、4月時点で6月5日開催として会場予約や会員への案内を行ってきました。結果としては、6月1日に福岡コロナ警報も解除され、無事に開催することが出来ました。

九修会の現状ですが、案内状送付の結果より、2022年5月現在、九修会会員数は215名、学生会員12名と

なっています。ただ、学生会員については平成31年卒までのデータであり、令和3年度卒までのデータをいただき、今後に反映したいと思っています。

さて、今回の総会は、田原学校長、深山同窓会長を迎え、会員20名、学生会員1名の23名で開催することが出来ました。総会の冒頭では、会員の状況や欠席者からの返信に際しての挨拶紹介と学園HPによる300周年事業や修道百科事典の紹介等がおこなわれました。

その後、高26回の近藤豊新会長の決意表明のち、来賓ご挨拶へと進みました。

田原学校長からは、新型コロナウイルス感染症初期での、スムーズなオンライン授業への移行や、その後の対面とオンラインの組み合わせ



総会での集合写真

わせによる授業、文化祭、体育祭開催など、状況に応じた学園運営の紹介がありました。また、その事を、全国の大いでも発表され、教育関係者へ大きな影響を与えられた事は、修道魂そのものだと感じる事ができました。

続いて、深山同窓会長からは、300周年事業に伴う寄付の状況などの説明に加え、サッカースタジアムの建設事業や広島カープの状況などのお話を頂きました。

その後、近況報告では、学生会員の本屋敷さん（高71回）からコロナ禍での大学生生活の紹介があり、リモート授業の楽しい仕掛けなどで大いに笑えました。その後、会員からの報告を受けましたが、今回は高39回生が多数参加されており、来年以降の九修会活動への強力な支援の約束を頂くことが出来ました。最後は、高6回の吉川さんの若々しい生活状況を聞くことができ、まだまだ頑張らないといけないと感じました。会の締めくくりは、全員で輪になり校歌斉唱を行い、来年の再会を誓い合いました。

修道医会令和3年度 （第65回）総会 報告

松本 正俊（高42回）

修道医会は修道学園を卒業し、主として広島県内で医師として活躍している方々の集まりであり、会員数は現在1,003名です。昭和31年7月1日に発足して以降、毎年1回の総会、ゴルフ大会、家族会（野球観戦）等を催しています。（令和3年度は中止）平成20年から学生部会をつくり（現在会員数79名）、広島大学医学部の在学生のみならず、他大学医学部の在学生にもよびかけて部会としての活動を行っています。

昨年度の総会は、令和3年7月31日（土）、新型コロナウイルス感染防止の観点によりオンラインにて開催しました。午後4時30分からの総会において、令和2年

度の事業報告や決算報告に加えて、令和3年度の事業計画や予算案が担当幹事より提示され、いずれも原案通り承認されました。第22回学術奨励賞は高54回の岡田啓先生（東京大学大学院医学研究科糖尿病・生活習慣病予防講座）が、Potassium Concentration in Initial Fluid Therapy and In-Hospital Mortality of Patients with Diabetic Ketoacidosis (DOI: 10.1210/clinem/dgab029) の論文業績で受賞、高55回の畑野悠先生（京都大学医学研究科医学専攻iPS細胞研究所増殖分化機構研究部門）が、地域医療を通じた研究の論文業績で受賞されました。第20回社会功労賞は渡辺章文先生（高22回）が永年にわたる広島県の中山間地医療の向上での功績で受賞、第11回文化功労賞は土肥雪彦先生（高6回）が永年にわたり外科医療に貢献され、また活発な執筆活動を通して健康長寿な社会および文化の形成に貢献されたことで受賞されました。

役員改選では、第23代会長に副会長の宮本勝也先生（高30回）が承認されました。

次いで午後5時からの特別講演（i）では広島大学大学院医系科学研究科外科学教授の高橋信也先生（高44回）より、循環器領域の治療の動向（心臓血管外科の行方）と題したご講演を拝聴し、特別講演（ii）では、聖マリアンナ医科大学臨床検査医学講座 特任教授の信岡祐彦先生（高25回）より、修道高校校是と医学教育と題したご講演を拝聴しました。

午後6時40分からは総会第2部を開

第58回広島修道

歯科医学会総会

毛利 雅哉 (高31回)

きました。大段秀樹会長(高33回)のご挨拶に引き続き、ご来賓の田原俊典校長から学園の現状を伺いました。深山英樹修道学園(中・高)同窓会会長より動画映像にてご挨拶を頂きました。さらに前述の3つの賞の表彰と受賞者の謝辞がありました。ご就任ご挨拶では、令和3年4月1日に県立広島病院院長にご就任された板本敏行先生(高28回)、令和3年4月1日に済生会呉病院院長にご就任された伊藤博之先生(高29回)、令和3年4月1日に世羅中央病院企業団企業長にご就任された横田和典先生(高35回)のご挨拶がありました。続いて、令和2年6月1日にインテグリンーマトリックス治療医学講座 広島大学トランスレーショナルリサーチセンター研究開発教授にご就任された横崎恭之先生(高26回)、獨協医科大学 呼吸器・アレルギー内科教授にご就任された仁保誠治先生(高39回)、横浜市立大学大学院医学研究科・医学部 分子病理学主任教授にご就任された藤井誠二先生(高39回)よりご挨拶がありました。

途中、修道卒業生の山縣亮太選手(高63回)のオリンピック陸上男子100メートルの中継映像を流し観覧しました。観覧後、学生部会より、学生部会部会長にご挨拶を頂きました。そして宮本勝也新会長よりご就任のご挨拶がありました。最後は事務局長松本(高42回)の閉会の辞で盛会裏に会を終えました。

今年もこの会により修道健児の心意気を示すとともに、今後の各分野での個々の活躍と修道同窓生としての連携を確認した次第です。

令和3年11月13日(土) 午後6時より「広島県歯科医師会館」において、第58回広島修道歯科医学会総会が開催された。本年度は新型コロナウイルス蔓延防止の観点から学術講演会・懇親会を省略し規模を縮小しての開催となった。

総会は久保康治専務理事(高37回)の司会進行で行われ、物故者への黙祷に続いて、椿田直也会長(高24回)より出席した会員への挨拶があった。椿田会長はその中で、2期4年務めた会長を退任されること、ご協力いただいた会員の皆様への感謝、また、修歯会がこれからもしっかり運営されていくことを願うと述べられた。続いて、各部からの報告がなされた後「役員改選」が協議され、椿田会長より次期会長に川原正照先生(高27回)を推薦するとの提案があり、満場一致の賛成で川原先生が第8代修道歯科医学会会長に決定した。その他の役員人事については会長一任ということで承認された。最後に、川原新会長より「伝統ある修道歯科医学会会長に任命され身が引き締まる思いである。今はコロナ禍でなかなか事業を行える状況ではないが、これが落ち着いてくれば、またしっかりとした運営をおこなっていきたい。創立60周年も近づいてきているので、会員の皆様にもますますのご協力をいただきたい」旨の挨拶があり、総会を終了した。

現在、広島県歯科医師会会長には山

崎健次先生(高31回)、広島市歯科医師会会長には熊谷宏先生(高34回)が就任されご活躍されている。また、県下の郡市地区会長や各組織での理事等に就いている同窓生も数多く、本心に心強く誇らしい限りである。これからも「修道魂」をもって県民・市民の皆様の健康増進に寄与し、先輩方から受け継ぐこの伝統ある「修道歯科医学会」がますます発展していくよう努力していきたい。

広島市修道会活動報告 (令和3年度)

木村 隆之 (高59回)

安芸小富士、ご存じのとおり、似島にある美しい山ですが、修道生ならこの言葉を書くと思わずあのメロディーを口ずさんでしまう方もいるのではないかと思います。

修道生としてその安芸小富士に導かれたのでしょうか。在学中には一度も行ったことがなかった私ですが、卒業後15年が経った今、市役所内で似島の活性化を手掛ける部署に所属し、月に何度も似島に通っています。初めて似島に渡り、間近で安芸小富士を眺めた時は、「旧友」に再会したような懐かしさを覚えたものです。もちろん仕事ですので楽しい事はかりではありませんが、フェリーに揺られながら、ついついあのメロディーを口ずさみ、「旧友」の待つ似島に向かう日々を送っています。

さて、広島で生活をしていると、本物

の？ 旧友に思わず再会することや、在学中にはご縁がなかった先輩後輩と出会うことが多々あります。私にとつて、広島市修道会は、このようなつながりを広げる大事なきっかけとなっています。今回はそんな広島市修道会の活動について、紙面をお借りして紹介します。

広島市修道会は、広島市役所の職員のうち、修道中学・高等学校、修道大学の卒業生約350名で構成しており、同様に卒業生の市議会議員の先生方にも顧問として入会していただいています。例年は、総会及び懇親会(これには御来賓として修道中学・高等学校と修道大学から、それぞれ校長と学長の御臨席を賜っております。)のほか、役員会や幹事会、忘年会(または新年会)等、年4回程度、会員が顔を合わせ、在学中の思い出を語り合う機会を設けており、市役所の中でも歴史の長い同窓会として活動を続けています。

令和3年度においては、長引くコロナ禍の中、やはり会員が一堂に会することは難しく、会計報告や役員選任の必要な審議は書面にて行うなど、少し寂しい一年となってしまいました。

しかしながら、最近では街中のにぎわいが戻りつつあることを感じています。もちろん、以前のように70人を超える参加者を迎えて会を開くことは容易ではありませんが、広島市修道会は市役所という大所帯の中で同窓の先輩後輩が一堂に会する貴重な機会であることから、「会を盛り上げる企画は何かないものか。」と、安芸小富士君とも相談しながら考えてみたいと思っています。

修道テニス部の想い出

大岡 征武（高14回）

修道学園在学中を振り返る時、想い出が走馬灯のように駆け巡りますが一番の想い出は高校一年からのテニス部での部活動です。

修道テニス部は広島県テニス界において旧中時代から中心となつて活動しており、全国大会・国体への出場の間連校であり、多くのOBが広島県テニス協会の要職に就任され広島県のテニスの発展に貢献されておられます。

私が入部した高校一年生四月頃は、現在の上皇明仁陛下ご成婚の時代で、このロマンスが軽井沢のテニスコートであったことで日本中がヒートアップし、全国的にテニスブームになり、わかテニスの人口が増え、わが校でも四十名近く入部していましたが、このような環境の中、修道学園にはテニスコートは千田キャンパスにテニス部用は一面しかなく（軟式テニス一面）テニスを楽しむ時間が殆ど取れない為に数ヶ月で多くの方が退部され数名が残っただけでした。

この頃、テニス部のレギュラーは西区高須の国鉄のコートを借用して練習しており、授業終了後自転車・広電で移動し、日が落ちるまで練習をしておりました。

この為に宮島沿線のメンバーが部員を中心でしたが、私は変速装置のない

昔の自転車皆実町から往復しており、お陰で準備運動及び持久力をつける特別なトレーニングをする必要は全く抜群のスタミナを持つことが出来ました。

高校三年生の広島県総体ではこの力と勝ち運で勝ち進み、シングルス優勝の栄誉を勝ち取り、全校生徒朝礼の際に表彰を受けて緊張した記憶があります。

この年は例年と異なりわが校の広島県総体の優勝は二種目で寂しい結果でしたが、サッカー部がその後国体・全国高校二大会に優勝し、二冠を達成し完全制覇、文武両道の修道を全国にとどろかせてくれたことが印象に残って居ります。

総体後、テニス部顧問の的場克己先生のご指導の下で、十四回卒の津島則之さん、門 健次郎さん、私大岡、十五回卒吉田周二郎さんが選手で、マネージャーの青盛 規さん（高14回）五名のチーム構成で広島予選大会優勝、インターハイ団体出場を果たし、OBの旧中二六回卒増田義実先輩、旧中三二回卒川本 洋先輩、旧中三五回卒友末弘三先輩が盛大な壮行会を八丁堀の「肉のまする」で行って戴き、全国の高校テニス部員憧れの堺市の中百舌鳥テニスコート（野球で言えば甲子園球場）に送り出して戴きました。

戦績は二回戦で愛知県の高校に敗退致しましたが、全国大会出場の感激と楽しい思い出がいっぱいです。

先輩諸氏のテニス部後輩への思い、広島県テニス文化の発展に尽くされた

この良き伝統を組織的に末永く続けていくことが必須と考え、テニス部活動、OB会を中心となつてお世話戴いていた的場克己先生退職の折に、岡田 弘（高18回）さんとともに七回卒中元正彦さんに会長をお願いし、修道学園テニス部OB会を会員の手で組織的に運営することで多くの会員の活性化とテニス部の発展を考えて再編成いたしました。



上段 左から 津島 則之 (14回)、吉田 周二郎 (15回)
下段 左から 門 健次郎 (14回)、大岡 征武 (14回)

以来、修道学園テニス部OB会が組織的に卒業生をフォローし、学校と現役生との間を取りまとめテニス部の発展に寄与していると思えます。

広島本部と東京支部が在り、両部門で親睦を深める行事を行なっております。広島では正月二日に毎年若いOB会員が初打ち会を開催し、現役部員を招待し、トーナメントを行い、現役の生徒への技術指導も行っております。

現在はコロナ禍の為広島も東京も親睦会開催は中止しておりますが、落着けば復活し昔話に花が咲き楽しい時間が持てるものと確信致しております。

近代テニスは基礎体力を鍛え、道具



テニス部OB会での集合写真

も進化しパワーテニスを中心で老いた我々に真似は出来ませんが（怪我のもと）、広島OB会会員有志（高7回から高21回が毎週十名）がそれぞれの体力にあわせてテニスプレイを楽しんでおり、修道でテニスに巡り合えたことに感謝いたしております。

修道学園に在籍された方で修道学園テニス部OB会の活動にご賛同いただける方は是非ご入会戴き共にテニスをやり楽しい時を過ごしましょう。ご連絡をお待ちいたしております。

最後に後輩の諸氏がこの伝統を受け継ぎ修道学園テニス部及び広島県テニス協会が発展するように精進いただけることを祈念し結びと致します。

懐かしき修道学園と 吾が人生点描

竹本 宗弘（高16回）

修道学園との縁は平成28年（2016）に白寿で逝った父・勇夫にまで遡る。父は山縣郡壬生町の尋常小学校高等科を卒業後、広島に出て病院の書生をしながら旧制・修道中学夜間部を昭和13年（1938）に卒業した（写真1）。そして朝鮮に渡り京城師範を経て教職に就き、終戦後は島根県境に近い雪深い山縣郡中野村（北広島町）の小学校の校長を8年務めた。そこは子供の私にとって、スキーやヤマ釣りや心躍らせる自然の樂園のようなどころであった。



写真1 旧制修道中学第36回（夜間）卒業記念 昭和13年2月14日
最前列中央・吉田校長：その後列左後ろ父・竹本勇夫

昭和30年（1955）、父は安佐郡可部町の山間の全校生徒が約70人の複

式学校に転任し、私はその卒業生として、昭和33年（1958）に修道中学に入学した。父は私を母校の修道学園に入学させたいとの強い思いがあり、校長から降格することになったが、山縣郡から広島市内に通学可能な安佐郡に転出したのである。可部は山陰気候の影響で冬は良く雪が降り、長靴に傘で登校すると、市内は嘘のように晴れていて、先生から「可部の山猿が出て来た」といつも冷やかされた。

（2021）4月、95歳で天寿を全うされた。子供の頃から自然に囲まれて育った私は、中学時代は星空と天文の魅力に取り付かれ、3年生の昭和35年秋には、県内アマチュアでは最大級の口径16cmの反射望遠鏡を自作した（写真2）。



写真2 中学3年時自作の口径16cm
反射望遠鏡 昭和35年11月

竹本家においては、父と弟に従兄まで含めると、4人が修道の同窓であり、修道の校風はわが家の家風にも濃厚に影響を与えている。

翌年3月に竣工した修道科学館に天体ドームが併設されると、物理班の中に天文部を立ち上げ、自宅の反射望遠鏡と学校の10cm屈折赤道儀を使い、夜空のロマンと魅力を追って月・惑星・星の観測にしばらく夢中になった。

修道の素晴らしさは6年（3年）の修学期間に、受験勉強のみに捉われず、有徳の人材育成を目指す藩校以来の伝統があることである。さらに主体性と実践を重んじる修道の教育の果実は、若き日の清新な魂を鼓舞する校歌と共に、社会の荒波に船出した卒業生の心にしっくりと引き継がれていると感じる。

高校1年の担任は世界史の田中清治先生である。先生との忘れ難い思い出は、早春の青天のもと、クラスで旧・安佐郡の最高峰白木山に登り、山頂から見渡した360度の爽やかな景色と弁当の格別な味である（写真3）。またこの山好きの田中先生が、私たちの卒業後、初志を貫徹されて弁護士になられたことは、教え子みなが挙って快哉を叫んだ実に誇らしく嬉しいニュースであった。



写真3 旧・安佐郡最高峰の白木山登山（昭和37年3月）高校1年3組
前列中央・田中清治先生 最後列左から8人目、筆者

生は、思春期の私達には、何事も相談しやすすい長兄のような包容力のある青年教師であった（写真4）。

中学3年間の担任は、声が大きく「ラッパ先生」の愛称のもと、頼りになる磊落な親父のようなお人柄の数学の川野観治先生であった。卒業50周年会では、久々にお会いし嬉しくご挨拶できたが、6年後の令和3年

高校2年〜3年の担任は国語の畠眞實先生である。先生にとって我々の学年は、初めてのクラス担任であったと記憶する。9歳年長（7回生）の畠先

後年、畠先生は平成7年から9年間に亘り、修道学園校長として学校経営の重責を担われた。その時期を含め現役の頃は仕事に追われ、母校や恩師を訪ねることができなかったが、折に触れその間に、畠先生に近況をご報告すると、その都度、暖かい返信を戴き大変有難く思った。

校長ご退任後の畠先生は、ライフワークの一環として、広島浅野藩校を起源とする修道の、特に明治維新前後の困難な時期の膨大な資料を、旧藩主や中興の祖、山田養吉先生の足跡を辿りながら綿密に精査され、これを集大成された。この精魂を傾けた十余年にわたるご尽力と使命感には、ひたすら敬嘆するほかない。



写真4 高校3年2組の運動会・仮装大会（昭和38年10月）前列中央右・畠眞實先生：後列右から4人目、筆者

なおこれらの成果の一部や他の講話資料などは、畠先生のご厚意により、電子データでお裾分け下さるので、同期諸兄にも広く見て戴くようにしている。あと一年余で迎える16回生の卒業60周年会には、クラス担任として唯一ご存命の先生の元氣なお姿に是非とも見たいものである。

若に舟木一夫の「高校三年生」の流れる卒業の頃は、政府の所得倍増政策のもとに「理工系ブーム」が叫ばれ、また東京オリンピック・名神高速道路・東海道新幹線・黒部第4ダムなど、国を挙げて大きな公共事業が展開されていた。こうした時代背景のもと、進学

先としては、天体宇宙物理などに行こうかとも思ったが、家庭の経済事情もあり、関心を地上世界に戻して工学部土木系学科に進むこととした。大学入学時のヒアリングでは、先に述べた体験もあり、「将来は宇宙土木をやりたい」と担当教官に話すと、怪訝な顔をされたが、それから約60年を経た今は、それが確実に現実になりつつある。

卒業後は日本道路公団に入ることになり、32年間にわたり国内外の高速道路事業に携った。また若い頃、英国交通省の研究所（TRL）に1年半ほど滞在する機会があり、欧州各国も訪問できて非常に大きな刺激を受けた。その後、仕事の上では十数か国と関係があったが、できれば若い時に海外の文化風土に接しておくことが、視野を広める上で極めて有益であると思う。

地方勤務の最後には名古屋建設局長として、平成10年から2年半、愛知万博を控え、最盛期を迎えていた伊勢湾岸自動車道・新東名神・東海北陸道・東海環状道路の事業に携わった。なお中部三県（愛知・岐阜・三重）は、浅野藩との縁が深いためか、不思議に生活文化や人間性に違和感がなく、里帰りしたような寛いだ気持ちで過ごした。

これらの高速道路事業には、世界でも最先端の技術工法を随所に導入したが、この間、修道OB関係者にも何かとご尽力を戴いた。当時の扇国交大臣が、本四架橋や東京湾横断道路などと併せて、「わが国の土木技術は世界一だ」と胸を張っていたが、まさに我が国の社会に活力と自信の漲っていた良

き時代であった。

また一方では、米国通商法（スーパー301条）の制裁を振りかざした日米通商協議の一環の建設協議で、管内の事業には複数の米国の会社が参入して来た。その頃、トヨタ社長の新任披露宴に合わせ、強硬な交渉役として悪名（？）高い米国商務省のM・シアリング女史が来日した。そして式典後に米国企業参入の返礼として、名古屋建設局を表敬訪問してくれた。この時の女史との機知に富んだ快活な懇談のなかに、彼女の人の別の側面をかいま見ることができ印象深く思った。

さらには、事業を進めて行く過程で、亀井静香衆議院議員にもお会いすることとなった。実は亀井先生と畠先生とは、修道同期の7回生だと聞いていたため、初対面の際には、畠先生からの便りを携え、母校に因む話題を糸口にして、打ち解けた雰囲気ですら直にご相談することができた。また平成9年暮に完成した東京湾横断道路の換気塔デザインについては、美術界の大御所、平山郁夫先生（旧中39回生・S23年3月卒）に委員会の部会長をお願いしたことも付記しておく。

我々の同期生も近年はほとんどが第一線を離れたが、在京の16回生は、幹事の森永博三君、修道OB会関東支部会長の弘中惇一郎君らの尽力で、新年会・ゴルフ会などで随時旧交を暖め、お互いの無事と健康を確かめ合っている（写真5）。

今にして「中庸」の冒頭の章句に由来する「修道」の命名の奥深さが少し

分かるようになったかと思うが、修道の同窓生は社会への公（パブリック）意識が高く、知徳併進、質実剛健の校是のもとに、無意識にその良き伝統を薫習し、自らの信念のもとに節操を曲げずに正道をしっかりと歩もうとするところがある。これは反面では、一徹なところがあるとも言え、世間で上手く立ち回って器用に遊泳することは余り得意ではないことにもなるか。しかし間違いなく社会にとっては有為で貴重な宝の原石、地湧の菩薩のような人材である。後輩諸兄におかれては、自らを信じ、夢と目標を忍耐強く追い求め、健康と節制に努めて、できるだけ長く社会に貢献して戴くことを切に希望いたします。



写真5 広島に帰郷する山下了君を送る16回生の会 平成30年3月

『鬼の会』の存在

菱川 方則（高16回）

鬼塚先生は修道中学校入学の1年生の時から高校卒業までの在学中に国語を担当されました。当時、先生は呉からの通勤で、いつもダブルの背広をバリツと着こなした実にダンディーな方でした。他方、教室では大変厳しく、出来の悪い私共を竹の根ブチで叩いたり、廊下に立たせたり熱血教師でもありました。



鬼塚先生

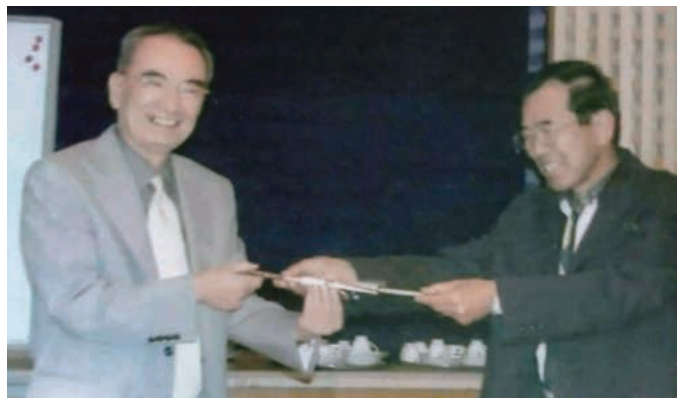
私も大学卒業後は広島に戻りましたが、師弟関係は変わらず、何かと相談や指導を享受しました。

それが同級生10人位で『鬼の会』というものになり、それぞれ職種は違いますが、先生を囲む夫婦同伴での会です。

親睦や報告会として、年数回の食事会、時には学生時代に返って漢文の熱血授業や、国内外への旅行をしたりしました。

懇親会のシメはきままって、先生の大好きなビンゴゲームです。景品をめぐって全員が大騒ぎ、ビンゴ座長が取り切りますが、さすがの先生もこの場は生徒になり文句は言えません。本当に心おきなく楽しい時間を過ごしたものです。

先生が鬼籍に入られた後は御令室との懇親会です。現在は新型コロナウイルスの関係で自粛しておりますが、和気あいの『鬼の会』は不滅です。我々も高齢となりましたが、『いつまでも元氣』を前提に頑張りたいと思います。



鬼の会での再現 授業前に“ネブチ”を水引きかけて献上!!

それは脈々として50年余り続きました。

私は兄二人も修道OBでして、よく共通の話をしたものです。同窓会でお世話頂いた平山郁夫（高

2回）画伯の『安芸の小富士』の陶板画を眺めて、向宇品での写生大会や学園生活を懐かしんでおります。同窓の皆様御活躍を祈念申し上げます。



恩師最高の笑顔

修道18回生同期会報告

山本 正一（高18回）

昭和41年（1966年）3月に母校を卒業した私達18回生は、昨年（2021年）が卒業55周年の節目でありました。そこで年初から、55周年を記念した思い出の残る同期大会開催を検討していました。しかし、このコロナ禍の中、年内での開催は断念せざるを得ませんでした。コロナ感染の状況を静観していると、11月、12月には

感染の陽性者の数が一桁になって来ましたので、本年（2022年）、年明け早々の1月3日（月）、広島駅前の「ホテルセンチュリー21広島」での開催を決定しました。案内状は、現在住所が確認できている347名に発送（卒業は約480名、物故者が57名）した所、出席回答が50名、欠席回答を150名から受取りました。残念ながら147名からは無回答でした。ところで、同期大会当日は、受付では、「同期生名簿」、「出席者名簿」、「同窓会事務局から提供していただいた学校案内、同窓会会報誌」を配布しました。そして記念品として、同期で東京芸術大学日本画科出身の村上潔君が絵付けをして、愛知県瀬戸市の窯元が焼いた「マグカップ」を全員に渡しました。（写真A参照）



写真A

この「マグカップ」は大好評でして、出席できなかった人にも、希望者には提供できるような案内もしました。ま

た、乾杯の音頭を当初、出席の予定でしたが、当日、やむを得ない事情で残念ながら欠席となった木元俊雄先生に電話での乾杯の発声をお願いしました。そして、懇親会では、プロのバンド「プリティーウーマン」による懐かしいオールディーズやダンスで、会場は大変な盛り上がりでした。その後、全員での記念写真撮影（写真B参照）と校歌斉唱で、滞りなく会を終えることができました。その後のオミクロン株での感染者が急激に増えているの思うに、この1月3日（月）の同期大会開催はまさに「ワンチャンス」の奇跡ではなかったのではと、世話人一同、胸を撫で降ろしている所です。今後、このような大規模な同期会開催は無理としても、広島近隣在住の者で、タイミングを見て、小規模な会合は、企画、検討はしていきたいと思っています。



写真B

湯川秀樹博士の思い出

住川 雅洋（高19回）

私が国泰寺中学から修道高校に進学した1964（昭和39）年の秋に、東京オリンピックが盛大に開催されました。しかし、それ以上に私の心を揺さぶったのは、同じ年に開催されたノーベル物理学賞受賞者湯川秀樹博士（京都大学教授）の校内講演でした。当時、湯川博士は日本人第一号（1949年授賞）にして、日本人唯一のノーベル賞受賞者でした。原子核の中に陽子と中性子を結びつける中間子の存在を予言した無口な博士は「全ての物事は疑いうる」との言葉を我々に残しました。講演後、理科系志望者が増えたとも聞きました。私も当然、理科系を志望しました。それくらい、湯川博士の若者を触発する力は強かったです。若者の心を揺さぶり、若者が自らの将来に思いをはせるようになる。これぞ、まさに教育の神髄です。



首相官邸にて(2022年1月11日)。筆者は右から2人目。

京都大学教授退官後、湯川博士は旧知のアインシュタイン博士（1921年ノーベル賞受賞、相対性理論を提唱）同様、反核運動に共感し行動もした。ノーベル平和賞の候補にもなりました。不器用な生き方の中に、きちんと筋を通す湯川博士の一生を思い起こすと、あの若き日の感動がよみがえってきます。



鳥居坂分館にて、職場の同僚と（2022年3月23日）。

今、私は大学を卒業して50年、常勤の仕事から離れ、ボランティア組織「きらめき未来塾」の理事長を仰せつかっています。この団体は夏休み中に、全国から高校生約50名を招いて、3泊4日の合宿研修を行うことが主たる業務です。郷土の大先輩の大竹美喜さん（アフラック創業者、東京広島県人会名誉会長）が17年前に庄原で創設されました（現在は名誉理事長）。

新型コロナウイルスのため、ここ2年は中止しましたが、今年は8月中旬に、オ

リンピック記念青少年総合センター（代々木）で3年ぶりの開催を予定しています。講師の方には、学校の授業と異なる視点で人生や社会に迫り、若い人に感動や触発を与えてもらいたいと願っています。幸い今年は、日銀入行同期の白川方明前日銀総裁がボランティアで講師を引き受けてくれました。あの東京オリンピックの年に、湯川秀樹博士から受けた感動や触発を若い人に与えてくれるものと確信し、講演の日が待ち遠しい思いです。

『校風と人脈』のお陰

土屋 定之（高24回）

修道を卒業して50年、振り返ってみると、修道の校風と人脈のお陰で、私ともども充実感を得ることができ、感謝しております。

浅野藩校として長い歴史を有しながら自由闊達な校風の下、努力しつつも余裕を見せる修道魂が大好きです。修道で、どんな状況でも前向きに対処できる姿勢、換言すれば環境変化に対する適応性や柔軟性を育んでいたいただき、「人間万事塞翁が馬」は私の座右の銘になりました。プライベートでも、仕事の上でも非常に良い結果に繋げることが出来たと思っています。40年間で過ごした公務員時代には、業務対象が例えば文化財保護から次は高等教育、そして科学技術などYk9とダイナ

ミックに変わりましたが、常に高いモチベーションをもって目標を設定し、強い関心をもって取組み、全力を出し切れたのは、修道の自由な校風の中の学習や仲間との交遊を通じて身に付けたモノの見方や考え方のお陰です。

校風とともに感謝しているのは、修道の人脈です。多くの立派な同窓の方々がおられますが、3人の方に御礼を込めてご紹介させていただきます。まず、ミスター修道の林正夫先生です。初めてお会いした時は、県議会議員を務められ、その後議長、さらに修道学園理事長にご就任されました。教育のあり方をはじめ様々な課題について、常に的確なご指導をいただき、感謝しております。

三菱重工の佃和夫元会長にも大変お世話になりました。面識が無いが是非お考えを伺うためのアポイントの申し入れに対して、案件の重要性に加えて修道の後輩であることも加味していただいたと思っておりますが、面談の機会をいただき、感激したことを鮮明に記憶しております。その後、宇宙開発や、教育改革等の分野に関して長くご指導いただきました。

そして、米国赴任の際にお会いした川村健一広島経済大学名誉教授です。私の環境とは大きく違ったダイナミックなビジネス展開を教えてくださいました。その後も、良き先輩(◎)良き後輩(???)で、奥様ともども、公私にわたり仲良くさせていただいております。

修道の宝物である、素晴らしい『校

風』と『人脈』により、修道と卒業生の皆様が益々大きく発展されることを心より祈念しています。



林正夫理事長(左)とともに

六十五歳の修道愛

村井 慎治(高27回)

修道高校の大先輩で、広島大学名誉教授の三嶋弘先輩から電話が掛かり、文章を書くよう依頼を受け恥ずかしながら書き進めます。

五百四十二番これは、私が修道中学を受験した時の受験番号です。受験番号を覚えていくぐらいい修道に入りたかったですね。最初の校庭で在校生による校歌斉唱は壮観でした。

中一の秋には校門のバリケードを機動隊が突破して、屋上から眺めていた

ら先生から帰るように指示がありました。ちょうど同じころ市内電車で広島大学の前を通過すると、正門横のピアーノ教室が火炎瓶で炎上中。



三嶋弘(高14回)先輩とともに

中二の時に母方の墓石を作るということで書道の吉田先生に墓石の題字のお手本を書いてもらいました。社会人になって修道の同窓会に参加して吉田先生に挨拶に行くと「長い人生で墓石の手本を書かされたのは、後にも先にもお前だけだ。よく覚えてい」今でも、そのお墓を大事にお守っています。

修道に入る一つの目的は、坊主にならず髪を伸ばせることでした。しかし剣道部に入って試合に負けて、剣道部何人かで坊主になりました。修道で坊主頭は珍しく、鬼塚先生に授業で名前を呼ばれず、前の坊主、後ろの坊主で指名されていました。

社会に出て修道の先輩方には沢山お世話になりました。安佐市民病院院長の多幾山先輩、会社事務所のオーナー

は山本真功先輩、胃腸は沖先輩、ここまでが剣道部の先輩。今の内科の主治医は深川の橋本先輩。修道から広島大学に行かれた山根恒弘先輩には数年前広島大学剣道場にエアコン設置の嘆願書の作成を山根木材の会長室で一文字一文字ご指導頂き、その嘆願書を広島大学のご提出するかを広島大学名誉教授の三嶋弘先輩にご指導いただき、一昨年、国立大学で二番目に剣道場にエアコンが設置されました。広島県剣道連盟会長は林正夫先輩が長年勤めていただいていた多大なご協力をいただいています。昔朝礼で岡島校長が、「修道にはありがたい卒業生がたくさんいます。多い順に北から広電の線路に沿って県庁、広島銀行、中国電力、市役所、フジタ。」この言葉が六十五歳にして懐かしく思い出されます。



文化祭でカープ応援 映画を上映

田淵 雅也（高28回）

これも運命だったのか……。
本来ならば、大学受験へスパートをかけるべき高校3年時が昭和50（1975）年。

広島県の地において、それがどういう年だったかは説明不要だと思う。

前年まで3年連続最下位で、セ・リーグのお荷物と酷評され続けた広島カープに夏場以降「優勝」の可能性が浮上してきたのだ。

その信じ難い状況に私は秋の修道文化祭に向けてカープ応援8ミリ映画の制作を決意。

父や同級生の隆野基晴君にも協力を仰ぎつつ、足しげく広島市民球場に通った。

事件発生は、9月10日の中日戦。カープ1点ビハインドの9回ウラ2死二塁、山本浩二の中前打で三村がホームに突入したその時！

完全にアウトのタイミングにもかかわらず、捕手・新宅はミットをカウンスター気味にアゴへ食らわせた。これには普段温厚な三村も激高。両軍もみ合う中、興奮した多くのファンがグラウンドに乱入し、中日ナインに襲いかかったため収拾がつかなくなった。

「なんやこれは！」 ネット裏から試合を撮影中だった私の眼前で偶然繰り広げられた実録「仁義なき戦い」

無我夢中でカメラを回し、この修羅場

が結果的に映画のハイライトとなった。

大島ら複数の選手が負傷する事態となり、警察官や機動隊員も緊急出動。

翌日の試合は「安全が確保できない」という前代未聞の理由で中止された。

お陰様と言おうか文化祭での上映会は大盛況で、期待通りカープは悲願の初優勝。夢が現実となり、修道学園全体も熱く盛り上がった。

当時日本シリーズは、すべてデーゲーム。平日の試合中は授業どころではなく、一部生徒はイヤホンでラジオの実況放送に聞き入り、先生もある程度黙認？していた。

何の言い訳にもならないが、私は大学入試に惨敗し、あえなく浪人。

学級担任の小野田先生や両親に合わせる顔がなかった。

ただ、趣味が高じて大学卒業後「日刊スポーツ」→「広島ホームテレビ」でプロ野球記者を通算15年（うち10年ほどカープ担当）務めた。

新聞、テレビ両方で取材にあたり、ホームテレビでは「カープDON!」というレギュラー番組に深く関わらせていただいた。在学中に、カープがまさかの初優勝を遂げ、記録映画

「それ行けカープ」を文化祭に出品。修道高校3年時の運命的な出来事が人生の方向性を定めたと言っても過言ではない。



柔道部の思い出

大上 芳樹（高31回）

中1、つまりは入学してすぐに、僕は柔道部の門を叩きました。

先輩に「どうして柔道部を選んだの？」と訊かれ、すかさず「柔道一直線」というドラマのように二段投げや地獄車を覚えたいからです」と返すと、腹を抱えて笑われたことが、古い記憶として残っています。

当時の柔道部は、無断でサボると、部員全員から1回ずつ投げられる。妙に恐ろしいシステムだな、と思っていました。でもその罰を受けないと、再び練習に参加できなかったのです。

夏の合宿はキツかったですね。朝から夕方まで、途中昼寝休憩をはさんで、ずっと練習に明け暮れる一週間でした。クーラーとか無いので全員汗だくです。

隣では剣道部が合宿していました。この猛暑の中、面や胴を着けての練習。彼らよりは、まだましだと自分に言い聞かせては柔道三昧。

冬には寒稽古がありました。乱取りは中1から高3までが一緒に行くことが少なくない。小さな僕が高3のオジサン達と組む訳ですから、何度も何度も投げられる。おかげで強くなれたのだと思います。市総体の軽量級の部で、準優勝できたのですから。

体の小ささのハンディーは大きく、「柔よく剛を制す」というのは現実離

れした。ことわざと認識した僕は、中学卒業と同時に柔道部を辞めてしまいました。

高校に入学してからは、バンド練習やライブの日々。小学生の頃から作詞・作曲をして、今現在、オリジナル曲は1300曲になりました。そしてCDデビューをきっかけに、僕のオリジナル曲が「有線放送」で毎日全国に流れるようになりました。今は、1日平均100人のファンの方々が「大上芳樹」のオリジナル曲をリクエストして下さっています。さらには「有線人気ランキング」で僕のオリジナル曲のうち12曲が全国第1位になり、それを耳にしたフジテレビの「世にも奇妙な物語」のチーフ・プロデューサーがMVを2本作成してくれました。「ユーチューブ大上芳樹せら」 「ユーチューブ大上芳樹コブラツイスト」で検索可能です。

最近では沢田研二さん、大澤誉志幸さん、大黒摩季さんのバックバンドの方々とレコーディングをしています。

<http://oueyoshiki.com>で検索の上、「CDご注文フォーム」をクリックして頂ければお求め頂けますので宜しく願います。

修道ゆかりの方々には是非とも聴いて頂きたいと思います。



修道と広島と東京と

金森 貴哉（高32回）

2025年に、藩校「講学所」開講から300年を迎える修道学園。創設250年にあたる前の年1974年に私は修道中学に入学しました。あれから50年たつたとは思えないほど成長してませんが、年々修道関係のつながりが深まっているようで、そのことを書いてみます。



1977年福島インターハイ

在校中は、ハンドボールの練習に明け暮れ、元且にはOBの方々との練習試合があるほどに休みなく、国体に出場したものの試合中に記憶喪失になったりして、勉強とは縁がなかったように思いますが、卒業したあとは、東京に棲みつきます。実家は広島から引越越し、私自身は金



2022年東京広島県人会懇親パーティー

ある日、修道同期の城本健司君（広島筆産代表 高32回）からの誘いを受け、関東の修道同窓会に参加したが2003年。先輩が大勢おられましたが、久しぶりの同級生と、懐かしい広島弁をしゃべっても誰もおかしいと思わない世界が楽しくて、久しぶりに修道の匂いを嗅いだ日でした。その後は毎年参加し、2005年に吉川晃司（高36回）さんのライブがあったときは、女性に大変羨ましがられ、修道のOBでよかった！と心の底から思いました（笑）。

2012年にその同窓会の学年幹事が回ってきて、無事開催できて一息ついたときに、住川雅洋先輩（元日銀広島支店長 高19回）から、東京広島県人会を手伝うように指名を頂きました。先輩の指名ですので断るわけに行かず、ひたすら事務仕事に徹しておりましたが、一昨年に幹事長を拝命し、

今は、柄にもなく、東京と広島をつなぐべく、ない知恵を絞る毎日です。

なんだか、年を重ねるごとに、修道の同窓の方々との関係が深まるばかりです。先日は、岸田総理の長男で秘書でもある岸田翔太郎（高61回）さんにお会いし、先輩風を吹かせておきました。今はまさに、書き切れないほど大勢の修道の先輩とお会いさせて頂き、30代、40代より充実した日々を送っております。疲れてくると、同期の佐古下潔重（高32回）君の両国にある店舗「酒菜や ゆず」でとぐろを巻いたり、巻かれたり。そんな日はまだまだ続きそうで、げに恐ろしきは修道なり。そんな日々が、修道の卒業生には待っているのです。

32回生の還暦祝い
『万歳!! オレたちのCAN暦祭』
『さあ、何でもカンでもCAN暦じゃ!』

諏訪 昭浩（高32回）

光陰矢のごとし。まだまだ若いつもりでも時の流れは待ってくれない。32回生の我々もついに還暦という「称号」をいただく歳になった。うれしいか否かは別として、人生初めていただくこの称号をしっかりと自覚してこの先の人生を歩むべく、諸先輩方に習って還暦を祝うイベント、題して『万歳!! オ

レたちのCAN暦祭』 『さあ、何でもカンでもCAN暦じゃ!』を2022年3月19日から21日にかけて開催した。実は我々の多くが還暦を迎えるのは2021年。当初は昨年に開催する予定であったが、ご多分に漏れずコロナ禍のためやむを得ず延期し、今年の開催となった。

まず初日の3月19日（土）には、東京始め全国から集まった同級生31名が「宮島グランドホテル 有もと」に集った。飲み放題で持ち込みも可能だった宴会には、誰がこれだけ飲むのかと驚くばかりの大量の持ち込み酒が並び、マスク着用などコロナ対策に配慮しながらではあったが、テーブルを行き来しての一体感がある愉快的な宴席となった。なかでも、恩師からのビデオレターには皆が感激し、昔を懐かしく思いだした。翌20日（日）の朝は、二日酔いの眼目をこすりつつ、厳島神社、大願寺、大聖院と三社参りの厄除けを行った。残念ながら筆者を含め数名は、翌日のことなど考えもせず酒を浴びたので、この催しには参加しなかった。

二日酔いも覚める午後には、マツダスタジアムで我々がカープの対ソフトバンクオープン戦を観戦。パーティールームで大いに盛り上がった。また、二日酔いも完全に消え去った夜には、同級生が経営するバーMandaraに有志が集まって美酒を酌み交わし、記憶を喪失するものが続出。

最終日の21日（月）は平日ではあったが、イベントの締めとして、宮島志和カントリークラブにて有志が最後の

戦い。大いに親交を深めた。

イベント参加者は大いに盛り上がり、まだまだいけると錯覚したのであったが、くれぐれも年寄りの冷や水にならないよう、気を引き締めていかねばと思う次第であった。

9月には、今回参加できなかった同級生のために、第2弾のイベントを企画している。同級生と集うイベントは何度でも楽しい。修道万歳！



還暦祝いで集合写真

高校33回卒業生 「還暦を祝う会」開催報告

修道高等学校教頭

上田 道浩 (高33回)

2022年8月5～7日、私たち高校33回青バッチ(昭和56年)卒業生は、卒業から42年を経て、還暦の節目を祝う会を開催いたしました。

初日の「カープ観戦」、二日目の「ゴルフコンペ」あるいは「母校見学会」、夕刻からの「還暦を祝う会」(宮島グランドホテル有もと)、三日目の「厄除け祈祷」(大聖院)の各行事に全国から同期生が参集し、旧交を温めることができました。唯一残念だったのは、企画・案内の段階では落ち着きを見せていた新型コロナウイルスの感染が再拡大したため、せっかく予定をしていたながらも参加を断念した仲間が少なからずいたことでした。

昭和53、54年の2年間英語でお世話になった宮崎先生からのご挨拶で幕を開けた「祝う会」には33名が参加し、久しぶりの仲間からの近況報告を肴にしながらの楽しい酒席となりました。学生時代にタイムスリップした気分を味わえたのは言うまでもありません。前述の新型コロナウイルスに鑑みて、ご参加を辞退された学年主任の畠先生をはじめ恩師の皆様には来年一月二日開催予定の恒例新年同期会にお越しいただきたいと思っております。私たちが還暦を迎えたことを記念して、高校33回として母校本館建替等工事に伴う寄附を行うことを決め、間を置くことなき再会を期して、会はお開きとなりました。

最後になりましたが、宮島での「祝う会」開催に際して、やまだ屋の中村靖富満社長(高30回)・宮島グランドホテル有もとの有本隆哉専務(高37回)には格別のご配慮を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。

修道と国際化

中村 武洋 (高33回)



還暦を祝う会

ケニア共和国ナイロビにある国連環境計画(UNEP)の本部に勤務し始めて30年になるうとしていきます。途中の1年間を除いてナイロビから国連加盟国の環境問題の解決に携わってきました。特に世界中の淡水環境や沿岸域の環境に関して、流域内や海洋環境を共有する国家間の調整や共同プロジェクトの運営の仕事をしてきました。

先日修道のウェブサイトをのぞいてみたら世界貢献とかフューチャーリーダーズプログラムといった言葉が出てきて、私たちが勉強してきた頃からの修道教育の変化を感じることができました。私たちの修道時代には国際貢献とか地球規模問題とかの言葉は取り上げられておらず、修道の授業や同級生との会

話が私に世界に目を向けさせてくれた契機になったと今でも思っています。

高校の時の世界史の先生であった田中肇先生の授業は、山川の教科書にないエジプト古代王朝の話やヘンリー8世の妻の話など、授業というより物語を聞いているようでした。もちろん教科過程の進度は遅く、高1が終わっても教科書の10%も終わっていない記憶があります。理系であった私は当時の共通一次試験(現在の共通テスト)の社会の一つに世界史を選択しましたが、受験勉強としての世界史はまったく面白くなく、共通一次の世界史の成績もよくなかったと記憶しています。今にして思うに現在の国際協力の仕事に役立っているのは世界史のうわべをたどる受験勉強ではなく、田中先生の物語のようにその地域のその当時の文化や人間像または国家関係を学んだことだと確信しています。まだ学生運動の余韻が残っていた当時、同級生と共産主義に関してとか、魯迅の文学について語ったことも世界に対する興味を掻き立ててくれました。

今の修道教育の現状がどうなっているのかわかりませんが、今でも修道生に世界に目を向けさせるような教育が行われていると信じています。東大や京大といった日本の大学に目を向けるだけでなく、ハーバードやシンガポール国立大学といった世界の大学への進学をも視野に入れ、将来世界に羽ばたく真のグローバルリーダーになっていく修道生が多数出てくれることを楽しみにしています。

音楽班初の全国総文出場

修道中学校・修道高等学校教諭

桑本 潤（高37回）



全国総文祭の予選（県総文祭）の演奏

音楽班はもと、合唱を中心とした活動をする班であったと聞いています。その音楽班の活動が軽音楽を中心としたものに変わったのは、1990年代であったと記憶しています。

当時はまだ軽音楽の活動が、あまり教師から歓迎されていなかった頃でした。修道でも校内で大きな音を出しては他班の参与から叱られ、自然と校外に出るようになり、同じく学校から歓迎されない他校の軽音楽部と交流を持つようになり、校外でのトラブルもいろいろありました。

その様子を
見かねた軽音
楽に理解のあ
る大人達（音
響の仕事に携
わる方、ライ
ヴハウス経営
者等）の後押
しで、広島県



表彰式（最優秀賞を獲得）

高等学校軽音楽連盟を非公式に立ち上げたのが2005年、県教育委員会の理解が得られて広島県高等学校文化連盟軽音楽専門部となったのが2012年、全国で初めて全国高等学校総合文化祭で軽音楽部門が開催されたのが2016ひろしま総文でのことでした。

2005年の立ち上げ当初から現在に至るまで、本校の田原俊典校長が連盟の会長・専門部の部長を引き受けてくださったこともあり、修道音楽班は常に軽音楽連盟の中心的存在として活動して来ました。しかし残念ながら、一度も広島県代表として全国大会に出場したことはありませんでした。

その音楽班の4人組バンド・Chromaticsが、2021年度の広島県総合文化祭において最優秀賞を獲得し、2022年8月に中野サンプラザで開催される2022とうきょう総文に、広島県代表として出場することが決まりました。これも偏に修道の自由な校風の中で、忍耐強く活動を続けてきた先輩方と、班員のバンド活動を暖かく支えてくださった歴代の参与の先生方のお陰であると感じています。

これから
も努力し
て、全国大
会の常連校
になれるよ
う頑張りま
す。応援を
よろしくお
願いします。



表彰式後の記念撮影

水泳班の思い出を 皆様とともに

修道中学校・修道高等学校教諭

名和原 寛（高51回）

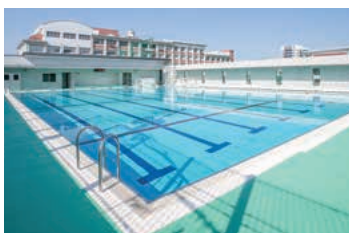
私の伯父は、修道19回の卒業生です。残念なことに若くして他界しましたが、この伯父が修道で（少しの間）水球をしていた、というのが私と水球との最初の出会いです。私が修道を受験し、水球を始めたのは必然と言っても良いでしょう。今年は、私が水球を始めてちょうど30年目の節目の年です。自分たちが過ごした「おらかな」時代、先輩に「熱心に」指導してもらい、ずいぶん水球は上手になりました。「」に深い意味はありません、多分。おかげさまでコンスタントに全国大会へ出場し、たまに入賞したりしていました。「あのシュートが決まっていれば！」というシーンは今でも鮮明に覚えています。うまくいった記憶よりも失敗した記憶というのが残りやすいのでしょうか。

さて、皆様は水泳班といえば何を思い出すでしょうか。やたらマッチョで、隣を歩くだけで威圧感を感じるといっようなフィジカルや、修道杯サッカーのPK戦で異常に止めるといった鬼のような精神力、毎日練習しているのに東大に受かったという要領の良さなどでしょうか（好意的なもの）。でも、一番は「こいつは水球をしに学校に来ているのではないか？」じゃないですか？ 同級生の水

球マンたちを思い浮かべてみてください。ほら、教室では常に休憩モードだった彼も、早弁した後に食堂に向かっていた彼も・・・思い当たる節がありませんか？

幸運なことに現在私は母校で教員として過ごしています。もちろんクラブは水泳班。上に挙げた生徒ですが、今は本当に少なくなりました。これは、水球以外にも世界が広がったことが要因としてあるかもしれません。YouTubeにオンラインゲーム、プロ○○とつくエンターテインメントの充実など、生徒たちは本当に様々なものに囲まれて生活しています。それでも、彼らは生活の一部として水球を捉え、毎日の練習に取り組んでいます。こういった選手を大切にしていれば、いざれ修道の水球は再び輝きます。見守ってください。ちなみに、競泳をやっている選手もいまして、昨年度はたったの4人にもかわからず、中国大会（中学校）で団体優勝しました。修道の競泳は、1960年代初頭以来、今最も輝いています！

最後に、修道プールは1977年に竣工しました2代目プールから、40年の年を経て、2017年に3代目プールとなりました。場所と同じ場所です。お近くにお立ち寄りの際は、ぜひいらっしやうてください。心よりお待ちしています。



現在のプールの写真

社会に出てからの修道 学園との繋がり

渡邊 仁也（高51回）

現在、私は福山市にてブルーランジェリーマルクパージュというパン屋をしております。

いろんな職を転々とした結果、もの作りというものをやったことなかった中で、やってみようかなと軽い気持ちで入ったのがパン屋でした。初めて経験することも多く、最初はまったくできず、悔しいことばかりでしたが、勉強はかたつきし駄目だった僕でも、書道の吉田先生、美術の蔵下先生から学んだ芸術性が開花したのか、次第に仕事振りも認めて頂けるようになり、店頭にも自分の考えたパンが並ぶようになりました。そして日清製粉の講習会へ参加できるように上司から推薦を頂きました。自分から希望して受けられる講習会ではなかったのですが、非常に嬉しかったのを覚えています。

その講習会の初日のことでした。日清製粉の吉田 淳（高44回）講師から、「広島出身って言われてましたけど、高校はどちらですか？」

「修道高校です」

「あっ、やっぱりか。男子校でその感じはそっだよな。バッジは？ 俺は

緑」

「え、僕は青なんでひとつ上ですか？」
「そんなわけない（笑）七つ下かー」

僕からあふれでる修道魂が吉田先輩には伝わってしまったのでしよう。あの三年、六年という中で培われる独特の空気感は消えないものですね。古き良き日本の文化、ビジネス敬語は見事に消え去り、高校の後輩という立場に降格しました。同級生とも話になりませんが、本当にどこに行っても修道の先輩、後輩に出会うので、修道網の広さ、心強さには驚きと感謝をしております。

僕は吉田先輩の講習会を通して自分のパン作りに対する姿勢、基本的な知識、技術、全てが足りてないことに気がつきました。パン作りへの科学的なアプローチと言いますか、今までは職場の先輩方の口伝えをメモするというおおよそ製パン理論と言えようなものではなかったのですが、理論と実践に裏打ちされた製パン法は目から鱗が落ちる思いでした。もう12年前の話になりますが、僕のパン作りの原点で、今でも行き詰まったら、この時に教えてもらったことに立ち返って考えるようにしています。

そんな僕が今ではお店の傍ら、穴吹調理製菓専門学校製のパンの講師をしているのだから人生はわからないものです。生徒の疑問と向き合うことで自分がさらっと流してしまったり、そういうものだと割りきってしまっていた製パンの知識や理解をより深めることができ、僕自身の成長にもなって非常に有意義な講師生活を送らせてもらっています。

社会にでてからも学び、成長していくことは幸せなことです。この歳になって実感します。

またその中で頑張っているのも、修道学園、修道の先輩、同級生、後輩の存在があるからこそだと思います。これからは溢れんばかりの修道魂で進んでいきます。ありがとうございました。



ブルーランジェリーマルクパージュ前にて

ターニングポイントと 修道生

竹中 真聖（高67回）

修道を卒業して様々な困難に直面してきたが、その度に修道生が私の傍にいた。

最初に直面した大きな困難は、「北九州予備校山口校」で過ごした1年間の浪人生活だった。北九州予備校山口校は山口県山口市にある予備校で、Googleで検索すると「北予備―監獄」と出てくるような厳しさで有名な予備校で、私も当時は監獄と感じていた人間の1人だった。

そのような時に、私を助けてくれる

同級生と出会った。彼は同じ修道生だったが、在校中はお互い面識がなかった。しかし、私のウワサは耳にしていたようで、向こうからコンタクトを取ってくれた。最初はひとりにして欲しくて煙たがったが、次第に私も心を開くようになった。彼から教わったことは、関わる人々に感謝する心構えだ。

以前までの私は、やっつもらって当たり前な心構えだった。おそらく、修道に入学してから甘えるだけ甘えた生活に身を任せて、自分を律してこなかったことが原因だ。彼の言い分に耳を傾け、それを実行してから、周りの反応が大きく変化した。感謝の気持ちを伝え始めると、伝えた人たちが、困ったときに手を差し伸べてくれるようになったのだ。そこで初めて、感謝の気持ちを言葉で伝える大切さを理解して実行することができた。

次に直面した大きな困難は、大学院への入学だった。大学4年生の時、慶應義塾大学法学研究科政治学専攻の入学試験を受験し、合格した。だが、周りがそのまま就職を決める中で、1人でやり切れるか不安になり、本当に大学院に進学してよいのか？ もしくは就職浪人して就活した方がいいのか悩んでしまった。

そのような時に、広島にいる同級生と6年の時担任だった名和原先生（高51回）に助けていただいた。同級生の彼は中学2年生からの仲で、就職浪人かこのまま進学か悩みを打ち明けたところ、それぞれの良い所・悪い所を彼

は親身に話してくれた。その上で、当時の担任の先生に悩みを聞いてもらっては？ とアドバイスを受けた。修道を卒業してから5年近く経過し、その間音信不通だったため、悩みを聞いていただけるか不安だったが、5年間音信不通だったにも関わらず、名和原先生は真剣に悩みを聞いてくださった。こうして、困難な状況で助けてくれた修道生のお陰で、今はなんとか立ち直ってきた。現在は無事に大学院を卒業し、大阪の企業で働いている。



旧制修道中学校教諭、 澤原一二先生と長野県 木曽福島町の佛法僧

楯 英雄

大正十四年十二月から、昭和十四年まで修道中学の博物の教諭澤原一二先生（本籍岡山県）は、大正十二年四月、新設された長野県木曽福島町の木曽中学校に赴任。町の裏山で稀少種の佛法僧の生息を発見。佛法僧の論文を雑誌『鳥』（大正十二、十三年）に「木曽の

佛法僧に就きて」を発表された。

佛法僧は「姿の佛法僧。声の佛法僧」と呼ばれ、美しい姿と、夜中に森の中から聞えてくる哀調を帯びた鳴き声は、人々を魅了する夏鳥である。佛法僧は長野県内では当時福島町だけでしか見ることができず、新聞で報道され、県内、福島町で大きな話題となった。

澤原先生はわずか二年間で木曽中学校を離任されたが、昭和十年隣村三岳村の佛法僧は国の天然記念物に、木曽の小学校の教育会は『木曽の鳥』を出版している。

木曽は最高級材木曾ヒノキの大森林で、明治時代には、皇室所有の「御料林」となっている。木曾御嶽山（三〇六七）山麓は九〇%以上が御料林である。大正十四年御嶽山中の景勝地「氷ヶ瀬」を歌人島木赤彦、齋藤茂吉が、三十キロも木曽森林鉄道王滝線に乗って、佛法僧の声を聴きに訪れている。



ブッポウソウ餌の玉虫を運ぶ

夜ふけし山かげに啼くらし佛法僧鳥の 声のかそけさ 茂吉
その後茂吉の結社「アララギ派」の歌人が御嶽山々中の御料林の山小屋に泊り佛法僧の声を聴き行き多くの名歌を残している。澤原先生によって世に出た福島町の佛法僧は、鳥の研究書と

なり、名歌となり、「文化の力」によって木曽の歴史に名をとどめてきたが、現在は忘れられている。

大正十四年三月木曽中学校を去り、名古屋市の私立愛知中学を経て大正十四年十二月修道中学校に迎えられている。



オニヤンマ とったどー

学校誌『修道』（第四十三号・昭和十四年）に、「我が校の景観とその愛護」を発表、「前任地木曽より移植しつる珍木は常に教材として」と誌し、「木曽より移植」としてトチ、キワダ、サイカチなど十種類の樹木を上げている。昭和初年頃の移植と思われるが現在はどうなっているのだろうか。

皇室所有の御料林は保護を重視し、民間へ苗木といえども簡単に販売しない。幾種類もの珍しい広葉樹を修道中学校へ移植できたことは貴重である。佛法僧の発見者という知名度の高い澤原先生であったからと思われる。

鳥の研究者として著名な信州大学名誉教授の中村浩志先生の『魅れ、ブッポウソウ』（山と溪谷社）によると、こ

の鳥は何十年かして飛来しなくなる習性の鳥のようである。福島町は木曽町と町名が変わり佛法僧が消えて半世紀。現在は長野県南部天龍川流域の下伊那天龍村に飛来、繁殖も十数年になる。近年「秘境駅」として知名度が高まっている飯田線が通り、東海道新幹線豊橋駅から特急で約二時間。天龍村は小学生が保護活動の中心。毎年の巣箱作りや、高い場所での巣箱掛は村民が手伝い、行政が支援する。天龍村を舞う佛法僧の美しい姿を紹介したい。澤原先生についての情報があれば御教示下さい。



「空中採食」ブッポウソウ



本校本館裏のトチノキ

（たてひでお 日本木地師学会々長
長野県塩尻市大門三番町十四・十一 電
話・ファックス0263・537620）

修道学園同窓会連合会・修道学園（中・高）同窓会 事業報告並びに収支決算、収支予算

2021（令和3）年度 事業報告

2021年4月1日～2022年3月31日

1. 修道学園同窓会連合会

事 項	実施日	備 考
監査会	2021年5月20日(水)	修道中学校・修道高等学校
正副会長会議、幹事会・評議員会（6月）	2021年6月16日(水)	書面審議
正副会長会議、幹事会・評議員会（3月）	2022年3月11日(金)	書面審議

2. 修道学園（中・高）同窓会

(1) 事業

事 項	実施日	備 考
正副会長会議、幹事会・評議員会（6月）	2021年6月16日(水)	書面審議
臨時正副会長会議	2021年6月16日(水)	修道中学校・修道高等学校
臨時正副会長会議	2021年8月24日(火)	修道中学校・修道高等学校
会報誌「修道」No.87発行	2021年9月1日(水)	
正副会長会議、幹事会・評議員会（9月）	中止	
講演会（梶真貴先生）	中止	
修道学園（中・高）同窓大会	中止	
臨時正副会長会議、幹事会・評議員会	2021年10月29日(金)	ホテルレソントウリー21広島
第74回修道高等学校卒業式（同窓会入会式）	2022年3月5日(土)	
正副会長会議、幹事会・評議員会（3月）	2022年3月11日(金)	書面審議

(2) 同窓大会・支部・職域総会

総 会 名	開催日	備 考
東部修道会総会	中止	
江能修友会総会	中止	
関東支部のつどい	中止	
広島市修道会総会		書面審議
修道医会総会	2021年7月31日(土)	オンライン開催
2021年度 修道学園（中・高）同窓大会	中止	
広島修道歯科医会総会	2021年11月13日(土)	広島県歯科医師会館
近畿支部総会	2021年12月5日(日)	Web開催（Zoom利用）
九州修道会総会	中止	

(3) 活動支援

※高校74回生に卒業記念品を贈呈
※修道中学校・修道高等学校「運動班・文化班等」の活動支援（激励費支給）

事 項	実施日	備 考
第55回織田幹雄記念国際陸上競技大会	2021年4月29日	
第16回全国中学生少林寺拳法大会	2021年8月13日	
第37回U20 日本陸上競技選手権大会 走幅跳・三段跳	2021年6月24日	
令和3年度全国高等学校総合体育大会体操競技大会・新体操大会兼全国高等学校体育競技・新体操選手権大会	2021年8月9日	
第46回文部科学大臣杯全国高等学校剣道選手権大会全国大会	2021年8月17日	
令和3年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 走幅跳・三段跳	2021年7月29日	
第61回全国中学校水泳競技大会	2021年8月17日	
第52回全国中学校サッカー大会	2021年8月1日	
全国都道府県対抗eスポーツ選手権2021IMEフットボール部門	2021年10月16日	
第16回全日本高校模擬国連大会	2021年11月13日	
第26回全国高等学校少林寺拳法選抜大会男子規定単独演武の部	2022年3月25日	
第77回国民体育大会冬季フリースタイル	2022年1月26日	
2022日本室内陸上競技大会U20 三段跳	2022年3月12日	

3. 広島修道大学同窓会

(1) 事業

事 項	実施日	備 考
フリマガゼットNo.49発行	2021年10月1日(金)	
第57回広島修道大学同窓大会	中止	
ラジオデリモート同窓会	2021年11月7日(日)	RCCラジオ (中四国9県8局ライオンネット)
広島フラーフェスデ・イベントへの参加	中止	

(2) 支部総会

総 会 名	開催日	備 考
九州修大会	中止	
中部修大会	2021年12月4日(土)	鶴ヶ別館
宇都修大会（臨時役員会）	2021年12月7日(火)	クラウンプラザホテル宇都
岡山修大会	中止	
三次修大会	中止	
福山修大会（役員総会）	2021年11月27日(土)	福山ニューキャッスルホテル
関東修大会	中止	
周南修大会	中止	
岩国修大会	中止	
関西修大会	中止	
長崎修大会	中止	
北海道修大会	中止	
日本海修大会	中止	
香川修大会	中止	
鹿児島修大会	中止	
愛媛修大会	中止	

4. 広島修道大学大学院同窓会

(1) 事業

事 項	実施日	備 考
2021年度広島修道大学大学院同窓大会	中止	

5. 鈴峯同窓会

(1) 事業

事 項	実施日	備 考
鈴峯同窓会総会		隔年実施のため不開催

2021(令和3)年度 修道学園同窓会連合会 資金収支決算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(収入の部)

科目	予算	決算	差異	摘要
分担金	1,861,000	1,584,000	277,000	各同窓会分担金1,000円×1,564名 (中高281名、大学1,038名、大学院7名、鈴響280名)
預金利息	30,000	25,496	4,504	国債利息、普通預金利息
雑収入	1,000	0	1,000	
小計	1,892,000	1,609,496	282,504	
前年度繰越金	25,728,931	25,728,931	0	
収入の部 合計	27,620,931	27,338,427	282,504	

(単位：円)

(支出の部)

科目	予算	決算	差異	摘要
業務費	470,000	131,138	338,862	
会議費	170,000	9,720	160,280	監査会経費
通信費	120,000	111,562	8,438	幹事会・評議員会案内はがき・中止案内 幹事決議案内はがき・メール便送料
慶弔費	160,000	0	160,000	
諸費	20,000	9,856	10,144	印刷代・タクシー代
予備費	500,000		500,000	
小計	970,000	131,138	838,862	
次年度繰越金	26,650,931	27,207,289	△556,358	
支出の部 合計	27,620,931	27,338,427	282,504	

(単位：円)

2021(令和3)年度 修道学園(中・高)同窓会 資金収支決算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(収入の部)

科目	予算	決算	差異	摘要
入会金	852,000	843,000	9,000	@3,000円×281名 (2021年度高3)
終身会費	1,988,000	1,967,000	21,000	@7,000円×281名 (2021年度高3)
名簿売上代	27,500	38,500	△11,000	@5,500円×7冊
預金利息	60,000	65,309	△5,309	国債利息、定期預金利息、普通預金利息 (広銀・広島信金)
雑収入	10,000	86,682	△76,682	同窓大会新聞(広告等活動費奈刺金 コロナ禍の為2021年度開催無し)
小計	2,937,500	3,000,491	△62,991	
前年度繰越金	39,707,935	39,707,935	0	
収入の部 合計	42,645,435	42,708,426	△62,991	

(単位：円)

(支出の部)

科目	予算	決算	差異	摘要
事業費	2,414,000	2,416,262	△2,262	
激励費	500,000	230,000	270,000	全国大会出場選手等への激励費
同窓大会補助金	200,000	200,000	0	
卒業記念品料	600,000	572,762	27,238	卒業記念品
その他の事業費	1,114,000	1,413,500	△299,500	会報誌87号3,000部 寄付リーフレット同封用に追加印刷20,000部
業務費	1,592,000	935,735	656,265	
会議費	412,000	337,575	74,425	合同会議会場代 ほか
通信費	400,000	307,503	92,497	電話代、メール便代、宅急便代 ほか
慶弔費	180,000	70,500	109,500	香典・生花代
諸費	600,000	220,157	379,843	支援助成金、広銀残高証明書 広信残高証明書、コピー代 ほか
その他の支出	284,000	281,000	3,000	
連合分担金	284,000	281,000	3,000	@1,000円×281名 (2021年度高3)
予備費	(400,000)		0	
小計	4,290,000	3,632,997	657,003	
次年度繰越金	38,355,435	39,075,429	△719,994	
支出の部 合計	42,645,435	42,708,426	△62,991	

(単位：円)

(注) 予備費400,000円の振替科目及び使用額は下記のとおりである。
その他の事業費400,000円

2021(令和3)年度 修道学園(中・高)同窓大会 収支決算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(収入の部)

科目	決算額	摘要
補助金	200,000	修道学園(中・高)同窓会より
広告収入	0	中止のためなし
会員券裏面広告協賛	0	中止のためなし
チケット	0	中止のためなし
祝金	0	中止のためなし
預金利息	0	
通帳作成繰入金	20	広銀、広信
記念品売上	0	制作したか販売していません
合計	200,020	

(単位：円)

(支出の部)

科目	決算額	摘要
大会チケット作製費	0	中止のためなし
大会運営費	0	中止のためなし
会場費	0	
料理・飲料(ウイスキー、樽酒)・室料	0	
サービスマテリアル	0	
音響・映像・設営	0	
消費税	0	
フュードドリンクプラン(税込)	0	
その他	0	
記念品関係支出	0	中止のためなし
給食メニュー	0	中止のためなし
映像作成費	0	中止のためなし
司会謝礼	0	中止のためなし
その他謝礼金	0	中止のためなし
広告宣伝費	165,000	広島朝日広告社様
事務用品費	0	
交通費	0	
会議費	0	
郵送費	0	
グッズ販売余剰金	0	
雑費・手数料・通信費	0	
一般会計一部繰り入れ金	35,020	修道学園(中・高)同窓会
合計	200,020	

(単位：円)

2022(令和4)年度 修道学園同窓会連合会 資金収支予算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(収入の部)

科目	予算	前年度予算	差異	摘要
分担金	1,854,000	1,861,000	△7,000	各同窓会分担金@1,000円×1,854名 (中高284名、大学1,300名、大学院10名、総数280名)
預金利息	30,000	30,000	0	国債・定期預金・普通預金利息
雑収入	1,000	1,000	0	
小計	1,885,000	1,892,000	△7,000	
前年度繰越金	27,207,289	25,728,931	1,478,358	
収入の部 合計	29,092,289	27,620,931	1,471,358	

(単位：円)

(支出の部)

科目	予算	前年度予算	差異	摘要
業務費	490,000	470,000	20,000	
会議費	170,000	170,000	0	幹事会(6月・3月)、監査会他
通信費	120,000	120,000	0	幹事会開催案内はがき、ゆうメール送料他
慶弔費	180,000	160,000	20,000	各同窓大会祝金、永年勤続表彰他
諸費	20,000	20,000	0	封筒代、印刷代、事務用品他
予備費	500,000	500,000	0	
小計	990,000	970,000	20,000	
次年度繰越金	28,102,289	26,650,931	1,451,358	
支出の部 合計	29,092,289	27,620,931	1,471,358	

(単位：円)

(注) △は前年度予算に比べ、減少を示す。

2022(令和4)年度 修道学園(中・高)同窓会 資金収支予算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(収入の部)

科目	予算	前年度予算	差異	摘要
入会金	852,000	852,000	0	@3,000円×284名(2022年度高3)
終身会費	1,988,000	1,988,000	0	@7,000円×284名(2022年度高3)
名簿売上代	27,500	27,500	0	@5,500円×5冊
預金利息	60,000	60,000	0	国債・普通預金利息
雑収入	10,000	10,000	0	同窓大会余剰金ほか
小計	2,937,500	2,937,500	0	
前年度繰越金	39,075,429	39,707,935	△632,506	
収入の部 合計	42,012,929	42,645,435	△632,506	

(単位：円)

(支出の部)

科目	予算	前年度予算	差異	摘要
事業費	2,075,000	2,014,000	61,000	
激励費	500,000	500,000	0	全国大会出場選手等への激励費
同窓大会補助金	200,000	200,000	0	(中・高) 同窓大会補助金
卒業記念品料	600,000	600,000	0	卒業記念品
その他の事業費	775,000	714,000	61,000	会報誌・同窓大会資料作成・DMイン代
業務費	1,604,000	1,592,000	12,000	
会議費	412,000	412,000	0	合同懇親会経費他
通信費	412,000	400,000	12,000	ハガキ代・電話代・メール便代他
慶弔費	180,000	180,000	0	祝金他
諸費	600,000	600,000	0	支部助成金、支部総会出席者旅費補助、印刷代他
その他の支出	284,000	284,000	0	
連合分担金	284,000	284,000	0	@1,000円×284名(2022年度高3)
予備費	400,000	400,000	0	
小計	4,363,000	4,290,000	73,000	
次年度繰越金	37,649,929	38,355,435	△705,506	
支出の部 合計	42,012,929	42,645,435	△632,506	

(単位：円)

(注) △は前年度予算に比べ、減少を示す。

2022(令和4)年度 修道学園(中・高)同窓会 資金収支補正予算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(収入の部)

科目	当初予算	補正後予算額	補正額	摘要
入会金	852,000	852,000	0	@3,000円×284名(2022年度高3)
終身会費	1,988,000	1,988,000	0	@7,000円×284名(2022年度高3)
名簿売上代	27,500	27,500	0	@5,500円×5冊
預金利息	60,000	60,000	0	国債・普通預金利息
雑収入	10,000	10,000	0	同窓大会余剰金ほか
小計	2,937,500	2,937,500	0	
前年度繰越金	39,075,429	39,075,429	0	
収入の部 合計	42,012,929	42,012,929	0	

(単位：円)

(支出の部)

科目	当初予算	補正後予算額	補正額	摘要
事業費	2,075,000	2,740,000	665,000	
激励費	500,000	740,000	240,000	全国大会出場選手等への激励費
同窓大会補助金	200,000	200,000	0	(中・高) 同窓大会補助金
卒業記念品料	600,000	600,000	0	卒業記念品
その他の事業費	775,000	1,200,000	425,000	会報誌作成・DMイン代他
業務費	1,604,000	1,604,000	0	
会議費	412,000	412,000	0	合同懇親会経費他
通信費	412,000	412,000	0	ハガキ代・電話代・メール便代他
慶弔費	180,000	180,000	0	祝金他
諸費	600,000	600,000	0	支部助成金、支部総会出席者旅費補助、印刷代他
その他の支出	284,000	284,000	0	
連合分担金	284,000	284,000	0	@1,000円×284名(2022年度高3)
予備費	400,000	1,000,000	600,000	
小計	4,363,000	5,628,000	1,265,000	
次年度繰越金	37,649,929	36,384,929	△1,265,000	
支出の部 合計	42,012,929	42,012,929	0	

(単位：円)

(注) 2020・2021年度に比べ、新型コロナウイルス感染症による活動制限が緩和されつつあるため、補正予算を作成し、6月の幹事会・評議委員会中止にともなう書面審議での結果、承認されました。

起工式及び工事の開始



左頁記載の『修道学園創設300周年事業 修道中学校 修道高等学校本館建替等工事 ご支援のお願い』や修道学園通信Vol.111をご覧になられた方には重複する部分があるかと存じますが、令和4年5月2日（月）、晴天に恵まれるなか、修道中学校・修道高等学校敷地内にて、10時から『修道中学校・修道高等学校本館建替その他工事』の起工式が行われました。

起工式では、饒津神社を斎主とし、理事長をはじめ学校関係者、設計監理業者である株式会社NTTファシリティーズ中国支店、施工業者である株式会社フジタ広島支店の関係者に参列していただき、感染対策に十分配慮したうえ、今後の工事が安全に進捗することを祈願しました。

後日、無事工事が始まり、完成は令和7年8月末を予定しております。その間、OBの皆様には何かとご不便をおかけしますが、ご協力の程よろしくお願いたします。

写真はそれぞれ完成パース図となっております。本冊子の表紙にもなっております渡り廊下は、残念ながら令和4年10月を目安に取り壊し予定です。完成パース図の通り、新しい渡り廊下も建設されますので、楽しみにお待ちください



修道学園創設 300 周年記念事業ホームページのご紹介

『修道学園創設300周年事業 修道中学校 修道高等学校本館建替等工事 ご支援のお願い』に関しまして、多大なるご寄附を賜り、誠にありがとうございます。

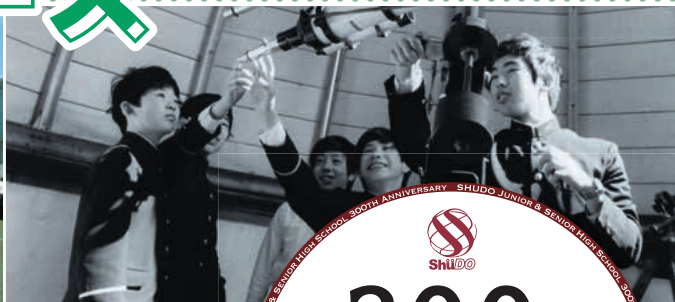
さて、本事業は同窓会ホームページとは別に、専用のホームページを公開しております。専用ホームページには、“寄附状況(毎月更新)”、“工事進捗REPORT”等を掲載しております。

是非ご覧ください。引き続き、よろしくお願いたします。

300周年記念事業ホームページ：<https://gakugai.shudo-h.ed.jp/300th-donation/>



同窓会ニュース



新本館建設 (ご寄附のお願い)

修道の校名は、広島藩12代藩主浅野長勲公が『中庸』の一節「道を修むるこれを教えという」から名付けられたものですが、その源は1725年、浅野吉長が白島の稽古屋敷に講学所を創立されたときに遡り、この長い歴史の中で、「知徳併進」の方針を掲げ「有為な人材の育成」を目指した修道教育が連綿と受け継がれて参りました。さらに、この建学の精神のもとに輩出された幾多の人材が、我が国の政治・経済・文化等幅広い分野にわたって活躍していることは、周知の事実であります。

さて、修道学園は2025（令和7）年に創立300周年を迎えます。これを記念するとともに、新しい時代の要請に応えた教育の質的向上・環境整備を図るため、老朽化の著しい本館の新築を中心とした建設計画が進められております。

長い歴史を誇る母校修道が今後も末永く繁栄し続けるため、また、誇るべき建学の精神を未来へと伝えるため、我々同窓生としても建設事業にできるだけのお手伝いをしようと考え、その切なる思いを形として表す意味で資金的な協力をお願いしたいと思います。

寄附募集のリーフレットは、写真等を差し替えて毎年作成し、ご寄附の有無に関わらず、同窓生の皆様に年1回送らせていただいております。昨今の厳しい経済事情の折り誠に恐縮に存じますが、同窓生の皆様には何とぞ趣旨にご賛同を賜り、格別のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

修道学園 (中・高) 同窓会

三宅 泰雄	緒方 直之	貞徳 伸治	田戸 幸一	大方 一郎	鶴野 徳文	中村 靖富	廣谷 清	伊藤 學人	貫名 賢	副会長 深山 英樹	会長
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	-----------	----

詳しくは同窓会ホームページをご覧ください。
<https://dosokai.shudo-h.ed.jp/>



事務局だより

昭和33年3月卒（10回卒）以前の写真を求めています。

① 卒業アルバム

2025年に創立300周年を迎えるに当たり、修道中学校・修道高等学校では、その記録を長く後生に伝えんがため、現在、所蔵資料の整理確認と、紙資料のデジタルデータ化事業を進めております。

本校に残ります写真のデータ化を中心に作業を急いでおりますが、残念なことに、昭和33年3月卒業（高校10回）以前の卒業アルバムが残されておられません。

つきましては、高校10回卒以前の卒業アルバムを一時本校に預けてもよいとおっしゃる方を探しております。お預かりしたアルバムは大切に保管し、デジタルデータ化後（約1年ほど時間をいただくこととなります。）にご返却いたします。お志のある方がいらっしゃいましたら、下記「修道学園（中・高）同窓会事務局」までご連絡ください。

② その他写真

卒業アルバムに限らず、修道中学校・修道高等学校に関わる古い写真を求めています。お送りいただいた写真は、デジタルデータ化し、インターネット上で皆様にご覧いただけるようアーカイブ化していく予定です。

【ご注意】

1. お送りいただいた写真はご返却できません。デジタルデータ化の後、本校にて丁重に保管させていただきますので、ご了解いただける場合のみご送付ください。
2. デジタルデータは、修道中学校・修道高等学校の歴史を広くご覧いただく目的で将来公開していく予定です。公開にご了解いただける場合のみご送付ください。
3. できましたら、写真の説明（撮影年代、状況の説明など）を同封いただくと助かります。

何とぞ趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。ご不明な点がございましたら事務局までご連絡ください。

住所変更手続きのお願い

会員の方で住所・電話番号・勤務先・メールアドレス等変更になった方は、変更手続きをお願いします。

変更手続きは、修道学園（中・高）同窓会のホームページに掲載されております。同窓会事務局宛のメールアドレス宛に変更をご連絡いただくか、または同窓会名簿内の添付はがきで、同窓会事務局までご連絡ください。電話・FAXでも結構です。ご協力をお願いいたします。

ご注意

本同窓会の名をかたって名簿を販売するケースが頻繁に起こっています。不審なハガキや電話等にはお答えにならないようお願いします。同窓会が名簿を発行する場合は、必ず同窓会長名で調査を行います。

修道学園（中・高）同窓会事務局

〒730-0055 広島市中区南千田西町8番1号
TEL (082) 241-6686 FAX (082) 249-0870
E-mail : dosokai@shudo-h.ed.jp

